

会 議 記 録（概要）

会 議 名	令和7年度第2回三田市総合文化センター運営評価委員会
日 時	令和8年3月16日（月）10時～12時
場 所	三田市総合文化センター 2階 会議室1
出 席 者	関谷委員長、加藤副委員長、山本委員、三谷委員、中嶋委員、小中委員、増田委員、
事 務 局 等	（市民生活部）横溝部長、榎本次長 （文化スポーツ課）畑課長、西副課長、山本
指定管理者	江口課長、池上館長、連記
添 付 資 料	次第、資料1～7
傍 聴 者	1人

会議概要

- 1 開会
- 2 市民生活部長あいさつ
- 3 委員紹介・事務局紹介【資料1】
- 4 正副委員長選出
- 5 確認事項
 - (1) 会議の成立について
委員8名中7名出席により成立
 - (2) 会議の公開、会議録の取り扱い及び指定管理者の招致について
会議は公開、諸般の説明等のため指定管理者出席
- 6 報告事項（以下、指＝指定管理者、委員長、委＝委員、事＝事務局）
 - (1) 令和7年4月～1月の管理運営状況について【資料2～3】

指 ＜資料2～3により説明＞

- ・第6期3年間の指定管理期間の最後の年である。
- ① 第36回シティフレッシュコンサート（4/6開催）
 - ・本年度は6名（昨年度過去最高の14名）
 - ・年々応募が減ってきているが、三田市及び近郊にゆかりのある若手演奏家支援、育成するレジデンシャルアーティスト発掘にもつながる重要な事業であり、継続に向けて募集条件、要項等の協議が必要だと思っている。
- ② 人形劇団クラルテ「パンどろぼう」
 - ・多世代から高評価を得ることができた。
 - ・「令和7年度県民芸術劇場」に採択され、チケット料金を安く設定できたことにより来場しやすい環境を整えることができ、チケット完売につながった。
- ③ 第58回 三田市民文化祭
 - ・来場者は2日間で展示部門532名、舞台部門1,415名で合計1,947名（前年比83.3%）
 - ・昨年度舞台については大ホールのみで行っていたが、大ホールで行うには観客が少ないという意見から本年度は一部音楽、バンドの演奏を小ホールに変更し一定の高評価を得られた。舞台に関しては前年を上回る出演者（本年度589名、昨年度580名）であった。

- ・アンケート（団体名任意）による率直なご意見（特に 11 月以外への開催時期の見直しや展示場所の公平性について）を多数いただいたので今年度の募集要項内容を三田市と相談しながら市民の方に来ていただけるものを作っていきたい。

- 委 シティフレッシュコンサートに出演のアーティストに対する出演料は払われているのか。
- 指 アーティストから出演料を 25,000 円いただいて出演いただいている。その代わりチケット 15 枚をお渡しする。
- 委 年々応募者が少なくなっているのであれば、プロの人等に出演料を払って出演を募ればいいのではないか。
- 指 コンセプトとしてプロの方は出演できない。あくまでもシティフレッシュコンサートの名前の通り、音楽大学卒業、見込みの方等が対象。
- 事 三田市、三田市近郊の若い芸術家さんを育成、応援していこうという趣旨のもと開催している。
- 委 パンドロぼうの事業（アンケート 3 ページ目）⑨媒体について「その他」の回答が半数以上（58 人）あるがこれは具体的に何なのか。
- 指 パンドロぼうの公式 HP に年間予定が掲載されており、そこに今回の事業も掲載されている。そこから知っていただいたというのがこの人数である。
- 委 幼稚園、保育園等にチラシを配布されたものだったと思うが。
- 指 もちろん幼稚園等にもチラシは配布したが、この「その他」に関してはパンドロぼうの公式 HP からによるものである。
- 委 市民文化祭について、来場者数が非常に少ない。来場促進の広報活動が必要ではないか。また展示と舞台が別の日になっているので、同日にすればお互いの来場者が覗くなど相乗効果が産めるのではないか。三田市には外国人が 1,600～1,700 人住んでいるので日本の文化に触れてもらう意味も含め、協会を通じて働きかけできないのか。郷の音側も会をセッティングするだけではなく広報的な部分で努力が必要ではないか。
- 指 展示と舞台を同日開催は不可能ではないが、控室等の関係により出演者の調整（抽選等により出演者数を絞る等）が必要。11 月はトップシーズンのため厳しいが、余裕のある他の月であれば工夫ができるかもしれない。
- 委員長 展示と舞台を同日に開催するための条件を参加者等含め話し合うことが必要。
- 指 文化祭については別日で議論の場を設ける予定である。
- 指 広報に関して課題が山積していることは認識している。国際交流協会にも 2 回（文化祭とさんだ祭りの件）でアプローチはしている。特にデジタル的な広報には苦戦していて、広報のやり方を見直すことを検討している。
- 事 観客席が寂しいというお話があったが、文化活動の大きな柱は、鑑賞と出演の 2 つがあり、市民文化祭は市民の方が「出演」することが大きな目的となっている。プロの方でも集客に苦労していることも聞くので、出演者のお知恵も借りながら良い方法を検討していきたい。
- 委 海外の方がステージで何か発表することに制約はあるのか。国際交流協会には働きかけはされているのか。
- 指 働きかけてはいるが、国際交流協会からは様々なハードルがあると言われている。
- 事 国際交流協会のフレンドシップデイという催し物ではいろんな国の方が舞台発表

をされている例はあるので需要はあると思う。

委 参加されている立場として伺いたいですが、広報はたくさんの人を巻き込んでいくことが重要だと思う。開催する側（郷の音）、委託する側（市）が発信しなければならないという観点の話が多いように考えられたが、それに出演する側としてどこまで人を巻き込んでいる感じというのは任されている側の肌感はどうか。

委 それぞれの団体が自分たちの短い出演時間のために人を集めるのはなかなか難しい。そこに弱さは感じている。本来の主旨はいろんな文化団体を総合的に見てほしいということであり、人任せではいけないが、個別の演奏会よりは訴求力は弱くなっている。

委 10 分だけの演奏と個別の 2 時間の演奏会では出演者の温度差を感じる。

委 本末転倒になるが、観客動員を問題とするのであれば、そもそも大ホールでするのではなく小ホール、市民センター等で小規模に開催するほうがにぎやかにできるのではないかな。アンケートにもあったが、郷の音でやらず一定期間内にあちこちで行われているものに参加してそれが一つの市民文化祭として開催されているようにすればよいのではないかな。また、出演するということがピークであるならば観客が少なくてもよいと思う。ホールの稼働率が高い時期ではなく、稼働率が低いときにやれば、効率という部分のみを考えた時にはよいと思う。

委 市民文化祭に関して出演者には出演料を取っているのか。

事 っていない。

委 文化祭開催にかかる約 200 万の支出というのは郷の音の運営にかかる費用の何%を占めているのか。

指 自主事業の総額に対して 20%強である。

委 文化祭の負担量は小さくないと感じる。委託しているとはいえ市民文化祭開催にあたって少なからず JTB に負担がかかっている。市として委託している責任をもってどのくらいの熱量で市民文化祭を開催しているのか。今後の展開についても聞きたい。

事 市民文化祭は文化協会への委託事業として長年お引き受けいただいていたが、令和 3 年より指定管理事業として JTB さんに運営していただいている。委託という言葉がでていますが、指定管理事業の 1 つとして「これはやってください」という形で市が指定しているものであり、企画、運営全て指定管理者に担っていただいている。負担面で指定管理者にこれで十分と納得いただいているかどうかは別として、事前に「これだけの事業をしてください」とご提示したうえで受けていただいている。

事 指定事業と位置づけさせていただいているので、市としては指定管理料としてその分を積算したうえで公募させていただいている。市が指定している以上、随時、指定管理者と協議しながら進めている。また、活動者の発表の場だけではなく、一人でも多くの方に見てもらえれば、市民への文化、芸術が広まるという観点から、大ホールを埋めるというよりも、少しでも見に来ていただける方を増やしていかなければならないと考えている。場所や時期等も含め、本日のご意見をもとに指定管理者と一緒に工夫しながらより良いものを作っていきたい。

委 ①（資料 2、8 月のご意見）利用者から駐車場の白線が見にくいというご意見があった。事故につながるなど等考えて、ラインマーカーを引く等、大規模改修の前に何かしら対策ができないか。

②（資料 2、11 月のご意見）受付の方の対応がよくなかった。どういう改善をなされたのか。

事 ①に対しては大規模改修の時の案件ではあるが、それまでの対応策については検討したい。また、駐車場だけではなく、建設から 20 年近く経過しており、総合的にどのように老朽化に対応していくかが差し迫った課題と認識しており、あわせて検討していく。

指 ②に対しては、本人に、本社の担当部署からの注意をするとともに、6.7 月に講師を呼び接遇研修を行う予定である。

委 自身が参加する側としてアンケートを見ると、よくここまで言えるなと思う意見もあるが、それは裏を返せば、参加する側に意見やアイデアがたくさんあって、運営するエネルギーがあるということではないかと思う。

多くの利用者の意見から市民の参加する意欲、エネルギーを強く感じる。郷の音は指定管理者が全面的に運営されているが、参加料を払うなど郷の音ホールの予算に還元しながら、市民の方々が運営していくことができれば、人々の巻き込みも可能になるのではないかと感じた。

委 できれば出演者の意見をくみ取れるような仕組みで企画運営から考えられればいいと思う。インターネットで意見集約などできないか。

指 言い訳になるがネットを見ない方が多い、募集要項でもいっぱい書くと字が小さくなってしまい見えないなどの苦労もあった。

委員長 出演者協力のもと観客に文化祭をショーケースととらえてもらい、目当ての団体だけでなく他の団体も見てもらえるようなになればと思う。

委 文化祭については、前年度を踏まえて改善するなど、指定管理者さんには本当によくやっているとされていると思っている。

（2）モニタリングの結果について【資料 5】

①指定管理者によるセルフ評価

年間評価について＜資料 4 に基づき説明＞

指 ・大ホールは目標 50%としたが未達であった。平日の夕方は概ね空いているので、地域クラブ活動で使っていただくなど、市と相談していきたい。
・利用者アンケートの満足度については講演 93.1%、講座 88.5%と高い数値ではあるが、更なる向上を目指し毎月のスタッフミーティングで議論していきたい。

②委員によるモニタリング

モニタリング結果について＜資料 5 に基づき説明＞

特になし

7 協議事項

（1）令和 8 年度の文化振興事業計画案について

指 ＜資料 6 に基づき説明＞

・次世代へ継承する地域文化創造拠点となる施設を目指し、生後間もないこどもから大学生まで生涯を通じた多様な体験を享受できる企画を多く提供する。具体的には乳幼児にはベビシアター、未就学児にはアートワークショップ、キッズシアター、小学生にはわくわくフルート体験及びアウトリーチ学校訪問（3 年生対象）、中学生、高校生には探究発表会、大学生にはシティフレッシュコンサートといっ

た、郷の音に行けば多様な年齢に合わせて何かを体験できるという拠点づくりを考えている。

- ・障害のあるこどもさんに楽しんでもいただけるキッズチャレンジシアターを開催しているが、ゆくゆくは障害の有無関係なく一緒にできるようなキッズシアターを目指す。
- ・障害のあるこどもさんに音楽に触れる、楽器に触れる機会づくりとして「音楽と遊ぼう」を検討している。
- ・こころ羽プロジェクトは、社会福祉協議会と連携して継続する。目的としては体験格差の解消や積極性を養うなど、気兼ねなく誰もが参加できる環境を整えること。
- ・新規事業として 5 月にドローン全国大会を開催。小型ドローンのプログラミングや操縦を競い合う。
- ・地域団体との連携について新たな取組として、2 点検討している。

1 点目は、市から命題であるエントランスロビーの活用。三田親と子の劇場さんと連携して安価もしくは無料で気軽に参加できるワークショップの開催を予定している。新年度になる前に、3 月 29 日にマジックスクリーンを作ってみようというトライアル企画を予定している。

もう 1 点は、三田落語協会との連携によるミニ落語会を年 3 回予定。郷の音寄席とは別に、郷の音に行けば落語が聞けるという状況を根付かせたい。5 年後には完成系にもって行きたい。

委 ドローン全国大会は観客として学生さんと呼ぶのか。

指 観客としても来ていただきたい。大会以外にもワークショップを予定している。関東大会、関西大会を勝ち抜いた主に専門学校生や大学生が参加する大会である。舞台上の 2 m までを飛ぶようにプログラミングされている。三田の子供たちに来てもらうことを目的にしている。

委 共催事業は収入に貢献するのか。

指 いろいろな共催があるが、収入が見えやすいという面がある。例えば大ホール 1,000 席あって、500 席ずつチケットを売ることになる。施設使用料は郷の音負担、出演料は先方負担というパターンが多い。

委 文化情報コーナーの活用予定はどうか。また探究発表会はとても良い発表だったが大ホールで客席が多く空いていた。小ホールのほうがよいのではないか。

指 文化情報コーナーの活用については、貸室的なりリニューアルができればよいが、現実的には難しく、エントランスホールの活用とあわせてワークショップ等で使用したい。

探究発表会は大ホールでしたいという高校生の思いもあったので大ホールで実施した。一方、展示室で行った小中高校生によるポスターセッションは盛況であった。他に科学部が中心となり実施した実験等も人気があった。

プロジェクターは本来の大ホールのものではなく代替機のため、文字が小さい等のご指摘があった。

委 勤務体制について、スタッフは何人いるのか。

指 4 社のジョイントベンチャーであり、窓口の JTB コミュニケーションデザインのスタッフは 10 人。他は舞台、設備・警備、清掃の 3 社があり、40 名程度。

委 スタッフ以外にボランティアがいるのか。

指 チケットのもぎり等、ボランティア登録していただいている方が 20 名程度。

8 その他

○今後の運営評価スケジュールについて

事 本日を含め、これまでに配布させていただいた資料やモニタリング結果を参照いただきながら、令和7年度の年間評価をいただきます。特に3以外の評価をされた場合は、コメントを入れていただきますようお願いします。資料7としております事業評価表を5月8日までにご提出ください。

その結果を集約し、令和7年度の総合文化センターの年間評価とさせていただきます。

○令和8年度のモニタリング事業について

指 モニタリング事業について、例年、7月の第1回運営評価委員会でご説明させていただいているが、それまでに実施する事業もあるので、この場でご紹介させていただく。シティフレッシュコンサート(4月5日)、おでかけミュージアム(6月6日)、レジデンシャルスペシャルコンサート(8月11日)、音楽で遊ぼう(6月～10月)、探究発表会(1月後半以降)等についてモニタリングいただければと思う。